正しい信仰のすすめ ⑨

「南無妙法蓮華経」と唱える宗教は、どれも同じですか？

――正しい御本尊に唱えてこそ幸せになれる――

日蓮正宗
NICHIREN SHOSHU

日蓮宗（身延派）では、大聖人の御本尊を印刷したものを本尊としたり、創価学会では、総本山第二十六世日寛上人の御本尊を印刷コピーして「正当な御本尊」と称し販売しています。

しかしこれらは皆、大御本尊から離れたものであり、それらに題目を唱えることは、利益がないばかりか、むしろ不幸になる原因を作ることになるのです。

日蓮正宗HP
QRコード

大日蓮出版
[4] H28.2

○日蓮正宗に帰依して幸せに

大聖人は、本門戒壇の大御本尊と仏法の一切を、第二祖日興上人に譲られ、以来、大御本尊は唯授一人の歴代御法主上人によって、日蓮正宗総本山大石寺に正しく伝持されています。

私達が幸せになるため、また先祖の方々を成仏に導くためには、正しい信仰が必要です。

どうか、一刻も早く日蓮正宗の大御本尊に帰依し、正しいお題目を唱えて、真の幸せへの道を歩んでまいりましょう。



大石寺三門（静岡県富士宮市）

○はじめに

世間には「南無妙法蓮華経」との題目を唱える宗教はたくさんあります。人々が唱えるのは、自分や家族が幸せになるため、あるいは先祖供養のためなどさまざまでしょう。

しかし、南無妙法蓮華経とさえ唱えれば、どの宗教でも同じ利益・功徳があるのでしょうか。



○日蓮大聖人が説かれた信仰の対象は大漫荼羅御本尊

「南無妙法蓮華経」のお題目は、今から七百五十年前、日蓮大聖人によって唱え出されました。

そして、法華経に予証された末法の仏というお立場から、信仰の対象として大漫荼羅御本尊を書き顕され、この御本尊を拝してお題目を唱えれば、災いも転じて幸いとなり、現世安穏・後生善処の利益を得ることができると説かれました。

> 「日蓮がたましひをすみにそめながしてかきて候ぞ、信じさせ給へ。（中略）御信心を出だし此の御本尊に祈念せしめ給へ。何事か成就せざるべき」（経王殿御返事・御書六八五ページ）

○本門戒壇の大御本尊こそ功徳の根源

大聖人は、多くの大漫荼羅御本尊を書き顕されましたが、なかでも弘安二（一二七九）年十月十二日、出世の本懐として「本門戒壇の大御本尊」を御図顕されました。

すなわち、本門戒壇の大御本尊こそ、仏法の一切の功徳が込められた究極の当体なのです。

したがって、この大御本尊を離れて、他の漫荼羅や釈尊像、位牌等にお題目を唱えても、それは大聖人の正意ではないので、何の功徳もなく、成仏もかないません。



本門戒壇の大御本尊が厳護されている大石寺奉安堂